

# 富士通の Open Source への取り組み

吉田 正敏

富士通株式会社

プラットフォーム技術本部プロダクトソリューション技術統括部

## [アブストラクト]

オープンソースソフトウェア(OSS)は、オペレーティングシステムである Linux をはじめ、データベースやアプリケーションサーバといったミドルウェアの領域においても適用範囲が拡大してきています。

本講演では、OSS の将来性と課題を提示し、どのような領域や用途で使用されているか、また、富士通がどのような取り組みをしているか、具体的な事例をまじえてご説明します。

加えて、富士通の OSS コミュニティへの貢献についてご紹介します。

## [キーワード]

OSS、オープンソース、Linux、IA サーバ

## 1. はじめに

OSS は、「無償で利用できる」や「ソースが公開されているため、ソフトウェアの再利用ができる」など、様々なメリットがあげられている中、実際にどのような利用がされているのか、利用に際しては、どのような課題があるのか、についてご紹介します。

## 2. 富士通の Linux の取り組みについて

サーバ市場において、IA サーバが主力となっており、その中で Linux の適用範囲が広がっています。富士通は Linux を IT 基盤を支える OS として、位置づけています。

## 3. 富士通の OSS の取り組みについて

OSS 市場は、今後 10 年間で年平均 22.5%の成長が見込まれています。富士通では、OSS を活用する上で必要となる OSS ソリューションを多数取り揃えています。

## 4. OSS で構築する業務システムについて

データベースやアプリケーションサーバには、OSS パッケージが広く使われています。また、フリーOSの利用も拡大しています。

## 5. 富士通のコミュニティへの貢献について

富士通は Linux カーネルや Xen.org といったコミュニティの発展に貢献しており、OSS 推進フォーラムにおいても OSS 普及活動に努めています。

## 6. おわりに

本講演をお聞きいただき、みなさまが現在利用されている IT システムが、OSS を活用することにより、更に利便性や用途、効率が向上するための参考になれば幸いです。

## [参考文献]

- (1) IPA 発行 2009 年度オープンソフトウェア利用促進事業 第 2 回 オープンソースソフトウェア活用ビジネス実態調査 調査報告書